

科目区分	専門教育科目	授業科目名	ゼミナールⅠ				科目コード	26S801	担当者	古賀 克彦、富工 由貴、桑原 真美、太田 智子			担当形態	クラス分け
対象学科・コース	生活創造学科 栄養士コース	配当年次	2年次	開講学期	春学期	単位数	1	必修・選択の別	選択	免許・資格要件				
授業形態	演習	履修条件							教育職員免許法 施行規則に 定める 科目区分等	科目区分				
実務の経験を有する教員担当科目		実務の経験内容及び 科目との関連								科目に含める ことが必要な 事項				

授業の主題	研究活動を通し栄養士として基礎的な能力と実践力を養うことを目的とする。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	個別に助言・指導を行う。
授業の方法	ゼミナールごとに研究活動を行い、その成果を学外へ発信する。	アクティブ・ラーニングの 実施方法	

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	オリエンテーション	卒業研究の概要を理解する。	第9回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	
第2回	研究活動の実施	ゼミナールの研究テーマを考える。	第10回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	
第3回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	第11回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	
第4回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	第12回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	
第5回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	第13回	中間発表準備	プレゼンテーションの練習を行い、スキル向上に努める。	
第6回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	第14回	中間発表準備	プレゼンテーションの練習を行い、スキル向上に努める。	
第7回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。	第15回	中間発表	各ゼミナールにて研究の中間発表を実施。	
第8回	研究活動の実施	各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。			事前・事後 学修時間 (分/授業1回)	45分/授業1回

教科書 [書名/著者 名/出版社]	教科書は使用しない。研究活動に必要な書籍等はその都度準備すること。必要な資料等はその都度配布する。	受講生への メッセージ	学生が担当教員と連絡、相談を繰り返しながら主体的に取り組むと完成につながります。また、学生同士でコミュニケーションを取りながら互いに学びを深めてほしいと思います。
参考書 [書名/著者 名/出版社]	なし		

評価基準																
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点 学修成果の 比率(%)	評価方法の配点比率(%)					学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S: 100~90%)	レベル4 (A: 89~80%)	レベル3 (B: 79~70%)	レベル2 (C: 69~60%)
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	尽心	① 学習意欲	20					20	研究・学習目標へ向けて継続的に取り組むことができる。向学心を持って研究・学習に取り組むことができる。	勤勉性、真面目さ、継続性、誠実性	授業内での発言・態度 課題への取り組み方	目標へ向けて継続的に取り組むことができる。向学心をもって研究・学習に取り組むことができる。	目標へ向けて継続的に取り組むことができる。ある程度向学心を持ち研究・学習に取り組むことができる。	目標へ向けてある程度継続的に取り組むことができる。	目標へ向けて継続的ではないが取り組むことができる。	目標へ向けて取り組むことができない。
		② 規律性														
	知識・技能	③ 知識														
		④ 技能														
	創造	⑤ 情報活用能力	20					20	研究で得られたデータを集計・説明するとともに、研究目的に沿って結論付けることができる。	情報処理	中間発表	実験で得られたデータをわかりやすく集計・説明するとともに、実験目的に沿って結論付けることができる。	実験で得られたデータを集計・説明することができる。	実験で得られたデータを報告集にまとめることができる。	実験で得られたデータを報告集に表現することができる。	実験で得られたデータの活用が不十分である。
		⑥ 課題解決力	20					20	研究を行う上で解決すべき問題点を十分に理解しその解決方法を提案できる。	問題発見力 問題解決力	中間発表	研究を行う上で解決すべき問題点を十分に理解し、その解決方法を提案できる。	研究を行う上で解決すべき問題点を理解しその解決方法を提案できる。	研究を行う上で解決すべき問題点を理解し、説明できる。	研究を行う上で解決すべき問題点をある程度理解し、説明できる。	研究を行う上で解決すべき問題点の理解が不十分である。
	表現	⑦ 言語活用能力														
		⑧ コミュニケーション力	20					20	実施した研究について、相手に伝わるわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。	意思伝達力、論理的表現力、プレゼンテーション力	中間発表	実施した研究の内容について、相手に伝わるわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容について、ある程度相手に伝わるわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容について、ある程度相手に伝わるプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容についてプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容についてプレゼンテーションをすることができない。
	実践	⑨ 主体性	20					20	目的を持って積極的に研究・学習を遂行できる。最後まで責任を持ち結果を向上させるための努力ができる。	積極性、責任感	授業内での発言・態度 課題への取り組み方	目的を持って積極的に研究・学習を遂行できる。最後まで結果を向上させるための努力ができる。	目的を持って積極的に研究・学習を遂行できる。最後まで結果を向上させるための努力ができる。	目的を持ってある程度積極的に研究・学習を遂行できる。	目的を持ってある程度積極的に研究・学習を遂行できる。	目的を持って積極的に研究・学習を遂行することができない。
		⑩ 協働性														
合計			100				60	40								